

【 復活のトロパリ 第8調 】

めぐみふかきしゅよ、なんぢはたかきより
 恵 深 主 爾 高

くだり、みっかのほうむりをうけて、
 降 三 日 葬 受

われらをくるしみよりときたまえり、
 我 等 苦 釋 給

わがいのちとふくかつなるしゅよ、こう
 我 生 命 復 活 主 光

えいはなんぢにきす。
 榮 爾 歸

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうぎなるもの、ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神 智 役 者 聖

なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および
爾羊群爲

ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
全世界爲 生命賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
三者祈給

【日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調】

こうえいはちちとこいとせいしんにき
光榮父子と 聖神歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成聖者亞使徒聖 我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國爾旅人及 異邦人受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾初我國於己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなあし、かれらにか
屬神子爲 彼等神

みの おんちようを あた え、ハリストスの きょうか い を た て
 恩 寵 與 教 會 建
 た り、い ま こ の きょうか い の た め に い の り
 今 此 教 會 為 祈
 た ま あ え、け だ し わ れ ら そ の しよ し は なん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢ に よ ぶ、わ が よ き ぼ く しゃ よ、よ ろ こ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べ よ。

【 復活のコンダク 第8調 】

い ま も い つ も よ よ に、ア ミ ン。
 今 何 時 世 世
 だ い じ ん じ な る し ゅ よ、なん ぢ は は か よ り ふ く
 大 仁 慈 主 爾 は 墓 復
 か つ し て、し せ し も の を お こ し、ア
 活 死 者 興
 ダ ム を ふ く か つ せ し め た ま え り。エ ヴ ア は なん
 復 活 給 爾
 ぢ の ふ く か つ を た の し み、せ か い の は て
 復 活 樂 世 界 極
 は なん ぢ が し よ り お き た る を い わ う。
 爾 死 興 祝

【 聖三の歌 】

代禱) ^{しゅ}主よ、^{けいけん}敬虔なる^{もの}者を^{すく}救い、^{およ}及び^{われら}我等に^き聆き^{たま}給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
主 敬 虔 者 救 及 我
らにききたまえ。
等 聆 給

代禱) ^{よよ}世世に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖 神 聖 勇 毅 聖
じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 憐
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖 神 聖 勇 毅 聖
なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ
常 生 者 我 等 憐
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖 神 聖 勇 毅
せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐
れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う
 聖 神 聖 勇

き 毅、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ、 わ れ ら を
 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ 。
 憐

【 プロキメン 提綱 主日第8調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) プロキメン、^{しゅなんぢら} 主 ^{かみ} 爾 ^{ちかい} 等の神に ^な 誓 ^{つくの} を作して 償えよ、

しゅ なんぢら の か み に ち か い を な して つ く の
 主 爾 等 神 誓 作 償

え よ 、

誦經) ^{かみ} 神は ^し イウデヤに ^{そのな} 知られ、 ^{おおい} 其名は ^{おおい} イズライリに 大なり、

しゅ なんぢら の か み に ち か い を な して つ く の
 主 爾 等 神 誓 作 償

え よ 、

誦經) 主^{しゅなんぢら} 爾^{かみ} 等の神に



【 使徒經 (アポストロス) 285 端 ティモフェイ書 4 章 9~15 節 】

代禱) 睿^{えいち}智、

誦經) 聖^{せい}使徒^{しと}パヴェルが^{たつ}ティモフェイに^{ぜんしよ}達する^{よみ}前書の讀、

代禱) 謹^{つつし}みて聽^きくべし、

誦經) 子^こティモフェイよ、此^これ 信^{まこと} なる 全^{まった}く 受^うく べき 言^{ことば} なり。蓋^{けだ}し 我^{われ}等^らは 此^{これ}が 爲^{ため}に 勞^{ろう}して 謗^{そしり}

を受^うく、乃^{すなわち} 活^かける 神^{かみ}に 望^{のぞみ} あるに 因^よりて なり、彼^{かれ}は 悉^{ことごと}く の 人^{ひと}、特^{こと}に 信^{しん}者^{じゃ}の 救^{きゆう} 主^{しゆ} なる

り。爾^{なんぢ} 此^{これ}等^らの 事^{こと}を 戒^{いまし}め 且^{かつ} 教^{おし}えよ。人^{ひと} 爾^{なんぢ} の 年^{とし} 少^{わか}き を 以^{もつ}て 輕^{かる}ん ず べ か ら ず、乃^{すなわち} 爾^{なんぢ}

言^{ことば} に、行^{おこな}い に、愛^{あい} に、神^{しん} に、信^{しん} 仰^{こう} に、潔^{けつ} 淨^{じよう} に 於^{おい}て、信^{しん} 者^{じゃ}の 模^も 範^{はん} と 爲^なれ。讀^{とく} 書^{しよ} と、勸^{かん}

諭^ゆ と、教^{きよう} 訓^{くん} とを、務^{つと}めて、我^わが 來^{きた}る を 俟^まて。爾^{なんぢ} に 在^ある 恩^{おん} 賜^し、預^{よげん} 言^よ に 由^{ちよう}りて、長^{ちよう} 老^{ろう} の 按^{あん}

手^{しゆ} を 以^{もつ}て、爾^{なんぢ} に 授^{さづ}けられし 者^{もの} を 忽^{ゆる}か せ 忽^{なか} に する 勿^{これら}れ。此^{こと}等^{しねん}の 事^{もつ}を 思^{これ}念^{つと}し、專^{これ}ら 之^{つと}を 務^め

よ、爾^{なんぢ} の 上^{じよう} 達^{たつ}が 衆^{しゆう} に 顯^{あら}れん 爲^{ため} なり。

***** (比較用 口語訳) 子テモテよ、これは確実で、そのまま受けいれるに足る言葉である。わたしたちは、このために勞し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。これらの事を命じ、また教えなさい。あなたは、年が若いために人に輕んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、輕視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。

【 アリルイヤ 主日第3調 】

代禱) 睿^{えいち}智、

誦經) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、

ア リル イ ヤ 。

誦經) ^{きた}來^{しゅ}りて^{うた}主に^{かみわ}歌^{すくい}い、^{かため}神^よ我が^よ救^よの^よ防^よ固^よに^よ呼^よばん、

アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、

ア リル イ ヤ 。

誦經) ^{さんよう}讚^{もつ}揚^{そのかんばせ}を^{まえ}以^{すす}て^{うた}其^{もつ}顔^{かれ}の^よ前^よに^よ進^よみ、^よ歌^よを^よ以^よて^よ彼^よに^よ呼^よばん、

アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、

ア リル イ ヤ 。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 94 端 19 章 1~10 節 】

代禱) ^{えいち}睿^ち智、

誦經) ルカ^{でん}傳^{せいふくいんけい}の^{よみ}聖^{よみ}福^{よみ}音^{よみ}經^{よみ}の^{よみ}讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸

代禱) ^{つつし}謹^きみて^き聽^きく^きべし、

誦經) ^か彼^{とき}の時^いイス^すス^ゆ イ^みェ^なリ^{もの}ホ^{ぜいり}ン^りに^り入^りり^りて^り過^りぎ^り行^りけ^りり。視^りよ、ザ^りク^りヘ^りイ^りと^り名^りづ^りく^りる^り者^りあ^りり、税^り吏^りの

ちょう と もの いか ひと み ほつ ひと おお よ
 長にして富める者なり。イイスの如何なる人たるを見んと欲したれども、人の衆きに因り
 み え み たけひく すなわちはし すす かれ み ため いちじく のぼ
 て見るを得ざりき、身の長短ければなり。乃 趨り前みて、彼を見ん爲に無花果樹に升れ
 かれこ かたわら す こ ところ きた とき あお これ み い
 り、彼此的 旁 を過ぎんとすればなり。イイス此の 處 に來りし時、仰ぎて、之を見て曰
 すみやか くだ けだしわれこんにちなんぢ いえ やど きれいそ くだ よろこ
 えり、ザクヘイよ、 速 に下れ、蓋 我 今日 爾 の家に寓るべし。彼 急ぎ下り、喜 び
 う ひとみなこれ み うら い きれゆ ざいにん きやく な
 てイイスを接けたり。人 皆 之を見て、怨みて曰えり、彼 往きて罪 人の 客 と爲れり。ザク
 た しゅ い しゅ われしよゆう なかば もつ まづ もの ほどこ もし
 ヘイ立ちて、主に謂えり、主よ、我 所有の 半 を以て、貧しき者に 施 さん、若し誣いて
 ひと と しばい これ つくの きれ い こんにちすくい こ
 人より收りしことあらば、四倍にして之を 償 わん。イイス彼に謂えり、今日 救 は此の
 いえ のぞ こ ひと こ けだしひと こ ほろ もの たづ すく
 家に臨めり、此の 人もアヴラアムの子なればなり。蓋 人の子は亡びし者を 尋ねて救 わん
 ため きた
 爲に來れり。

(比較用 口語訳) イエスはエリコにはいって、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイ
 という名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。彼は、イエスがどんな人か見たいと
 思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見るができなかった。それでイエスを見る
 ために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。
 イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。
 きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんで
 イエスを迎え入れた。人々はみな、これを見てつぶやき、「彼は罪人の家にはいって客となった」と言
 った。ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。ま
 た、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言わ
 れた、「きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われ
 たものを尋ね出して救うためである」。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 歸 光 榮
 はなんぢにきす。
 爾 歸

※ 代式祈祷③へ